

令和6年3月1日

# 学校だより

— 令和5年度学校評価【報告】 —

小野市立中番小学校長 井上 雅規

早春の候、保護者の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は、本校教育の推進にご支援とご協力を賜りまことにありがとうございます。

さて、昨年末に実施しました「学校評価アンケート」についてはご協力を賜り、まことにありがとうございました。皆様からいただいた貴重なご意見を踏まえ、その結果について下記の通りまとめました。

本結果を踏まえ、今後の本校教育に生かしていきたいと考えております。これからもよろしくお願い申し上げます。

記

## 学校評価結果 P1～P4

< 考 察 >

- I 学校満足度・・・・・・・・・・P5
- II 小中一貫教育・・・・・・・・・・P6
- III 改善が必要な項目・・・・・・・・P7
- IV その他・・・・・・・・・・P8
- V 学校評議員の皆様から・・・・・・・・P9

○グラフの評価について

◆肯定的評価は、

A評価「そう思う」 (%) とB評価「どちらかと言えばそう思う」 (%) の合計

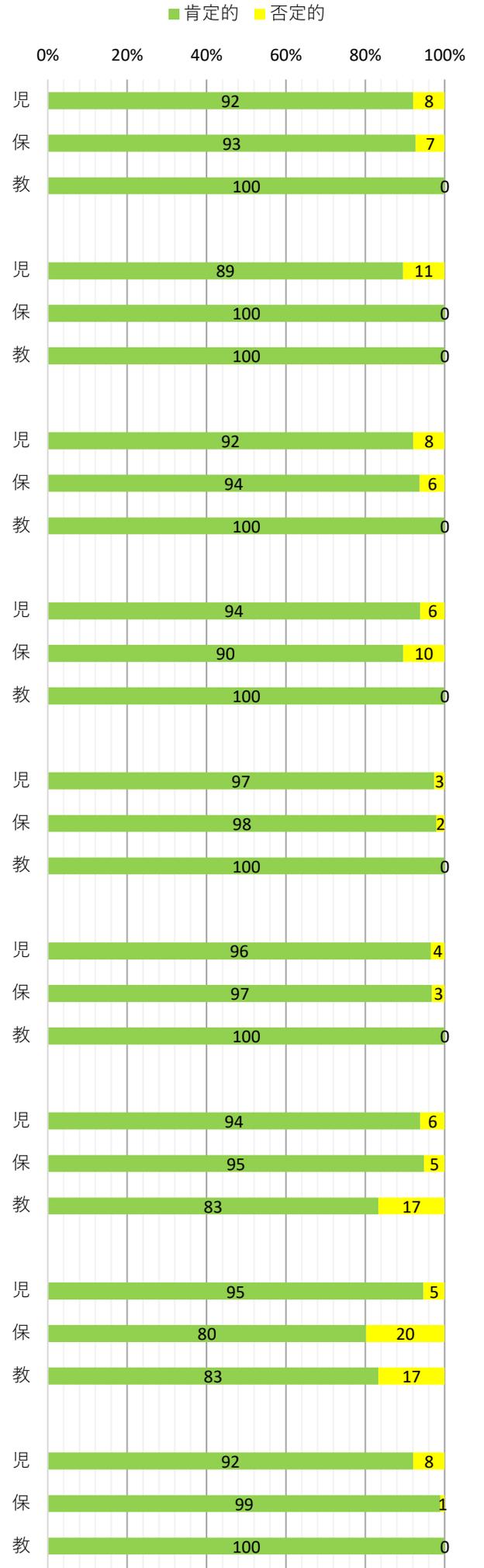
◆否定的評価は、

C評価「どちらかと言えばそう思わない」 (%) とD評価「そう思わない」 (%) の合計となっています。

令和5年度

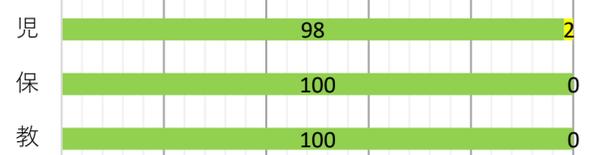
# R05 学校評価

設問番号	項目	肯定的	否定的
1	児 わたしは、学校へ行くのが楽しい。	92	8
	保 お子さんは、楽しく学校に通っている。	93	7
	教 児童は、楽しく学校生活を送っている。	100	0
2	児 わたしは、夢や目標をもって生活している。	89	11
	保 保護者として、子どもの夢や目標を支援し、励ましている。	100	0
	教 私は、子どもの夢や目標を支援し、励ましている。	100	0
3	児 わたしは、自分のよさを知り、「かけがえない自分」を大切にしている。	92	8
	保 保護者として、お子さんのよさを認め、自尊感情の高揚に努めている。	94	6
	教 私は、子どものよさを認め、自尊感情の高揚に努めている。	100	0
4	児 わたしは、学校の勉強が分かる。	94	6
	保 お子さんは、授業内容を理解している。	90	10
	教 児童は、進んで学習に参加し、理解している。	100	0
5	児 わたしは、色々な先生（少人数授業、教科担任制）が教えてくれることは、よいことだと思う。	97	3
	保 学校は、少人数授業や教科担任制を行い、子どもに確かな学力の定着を図ろうとしている。	98	2
	教 学校は、少人数授業や教科担任制の導入で子どもに確かな学力の定着を図っている。	100	0
6	児 わたしは、ゲストティーチャーや地域の人達が学習に参加することで、楽しく学習ができる。	96	4
	保 学校は、専門家や地域人材の導入、参加体験型の学習等、指導方法の工夫・改善を図っている。	97	3
	教 私は、専門家や地域人材の導入、参加体験型の学習など指導方法の工夫・改善を図っている。	100	0
7	児 わたしは、「一人学び」「話し合い活動」などの学習活動を頑張っている。	94	6
	保 学校は、読む・書く・話す活動を大切に、表現する力（コミュニケーション力）を育てようとしている。	95	5
	教 私は、「一人学び」や「話し合い活動」など言語活動を大切に、表現する力（コミュニケーション力）を育てようとしている。	83	17
8	児 わたしは、宿題や自学などの家庭学習を自主的・計画的に行っている。	95	5
	保 お子さんは、宿題や自学の家庭学習を自主的・計画的に行っている。	80	20
	教 児童は、宿題や自学の家庭学習を自主的・計画的に行っている。	83	17
9	児 わたしは、なかよし班活動に進んで参加している。	92	8
	保 学校は、なかよし班活動等特色のある教育を行っている。	99	1
	教 学校は、なかよし班活動等特色のある教育を行っている。	100	0



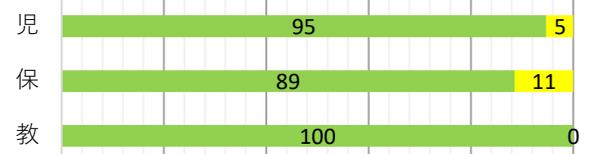
10	児	わたしは、中番フェスティバルやマラソン大会等に楽しく参加している。
	保	学校は、中番フェスティバルやマラソン大会等の学校行事を工夫している。
	教	私は、中番フェスティバルやマラソン大会等の学校行事を工夫して実施している。

児	98	2
保	100	0
教	100	0



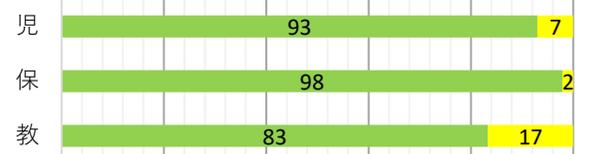
11	児	わたしは、いじめ、仲間はずれをしないでだれとでも仲よくしている。
	保	学校は、いじめを防止し、仲間づくりや学級づくりを大切に考え、取り組んでいる。
	教	私は、いじめのない学級づくりのために仲間づくりや学級づくりに積極的に取り組んでいる。

児	95	5
保	89	11
教	100	0



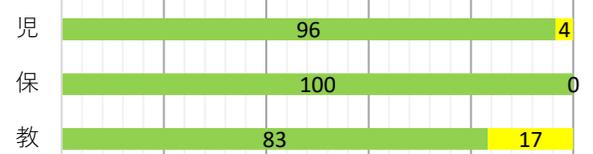
12	児	わたしにとって、ICT機器を使った授業は分かりやすい。
	保	保護者として、ICT機器（コンピューター・プロジェクター等）を使った授業は、子どもの学習にとってよいと思う。
	教	私は、ICT機器（コンピューター・プロジェクター等）を使った授業を積極的に行っている。

児	93	7
保	98	2
教	83	17



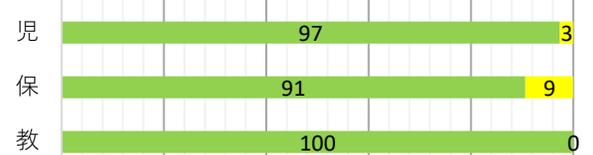
13	児	わたしは、英語活動が将来にとって重要であると考え、積極的に取り組んでいる。
	保	保護者として、英語活動はこれからの教育にとって重要かつ必要であると思う。
	教	私は、英語活動の重要性と必要性を認識し、積極的に取り組んでいる。

児	96	4
保	100	0
教	83	17



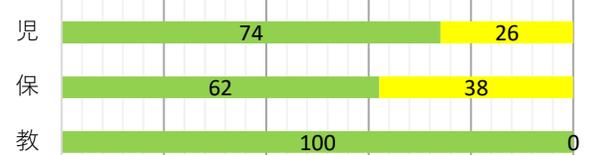
14	児	わたしは、友達を大切に生活している。（人の嫌がることをしない・言わないなど）
	保	学校は、「人を大切にする」ことを重視し、人権教育や体験活動を通して豊かな心を育てようとしている。
	教	私は、「人を大切にする」ことを重視し、人権教育や体験学習を通して豊かな心を育てようとしている。

児	97	3
保	91	9
教	100	0



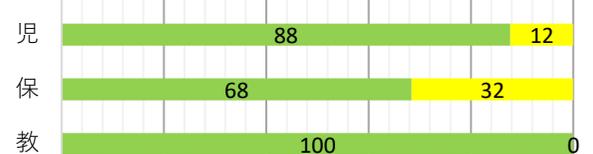
15	児	わたしは、家で毎日、読書（新聞を含む）をしている。
	保	お子さんは、家で、毎日、読書（新聞を含む）をしている。
	教	私は、児童の読書（新聞を含む）習慣を定着させるための取組を推進している。

児	74	26
保	62	38
教	100	0



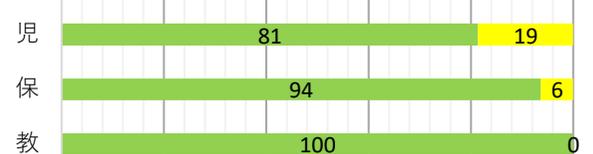
16	児	わたしは、ゲームやスマホ、パソコンを、1日1時間以内、親のいるところでしている。
	保	お子さんは、ゲームやスマホ、パソコンを1日1時間以内、親の目の届くところでしている。
	教	私は、ゲームやスマホ、パソコン等のきまり（1日1時間以内、親の目の届くところでする）を機会ある毎に啓発している。

児	88	12
保	68	32
教	100	0



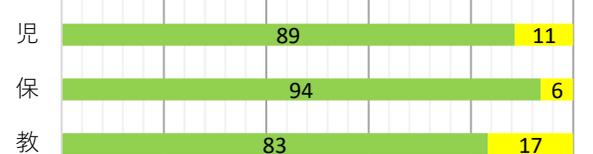
17	児	わたしは、小中一貫教育の以下の取組について、知っている。 ①中1～3年生が7～9年生となった。②5・6年生における教科担任制の定期テスト（5・6年生）[今年度は実施していない]③あさひ祭への6年生の参加④中番小学校の運動会やマラソン大会に中学生が参加し交流をしている。]
	保	保護者として、小中一貫教育の取組について知っている。 ①中1～3年生が7～9年生となった。②5・6年生における教科担任制の定期テスト（5・6年生）③旭丘中学校の先生が中番小に異なり、中番小学校の先生が旭丘中学校に行ったりして、相互の学校の様子（授業、児童・生徒の様子など）を理解するために交流している。[今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため未実施]④あさひ祭への6年生の参加⑤中番小学校の運動会やマラソン大会に中学生が参加し交流をしている。⑥旭丘中学校区の全教職員が研修をしている。[年2回]
	教	①中1～3年生が7～9年生となった。②5・6年生における教科担任制の定期テスト（5・6年生）③旭丘中学校の先生が中番小に異なり、中番小学校の先生が旭丘中学校に行ったりして、相互の学校の様子（授業、児童・生徒の様子など）を理解するために交流している。[今年度は実施していない]④あさひ祭への6年生の参加⑤中番小学校の運動会やマラソン大会に中学生が参加し交流している。⑥旭丘中学校区の全教職員の研修をしている。[年2回]

児	81	19
保	94	6
教	100	0



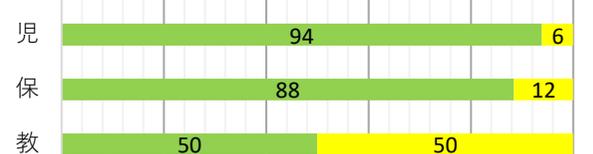
18	児	わたしは、小中一貫教育が目指す「自立」に向けて、自分で考え、判断し、行動している。
	保	保護者として、小中一貫教育の取組は子どもの自立・成長にとってよいと思う。
	教	教師として、小中一貫教育の取組は子どもの自立・成長にとってよいと思う。

児	89	11
保	94	6
教	83	17

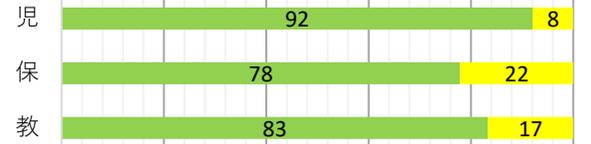


19	児	わたしは、家の人、先生、友だち、近所の人によくあいさつをしている。
	保	お子さんは、家族や地域の人によくあいさつができています。
	教	児童は、友だちや先生に元気な返事やあいさつができています。

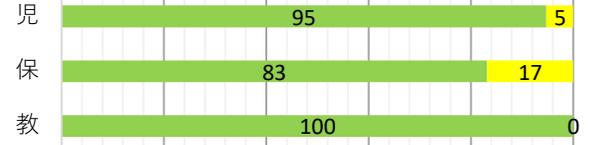
児	94	6
保	88	12
教	50	50



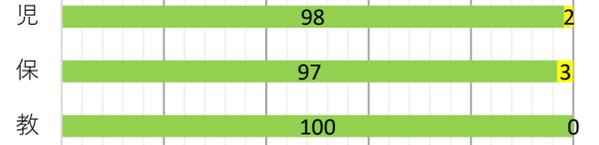
20	児	わたしは、忘れものがないように自分で準備や用意をしている。	児	92	8
	保	お子さんは、忘れ物がないように自分で準備や用意ができています。	保	78	22
	教	児童は、自分で準備や用意ができ、忘れものが少ない。	教	83	17



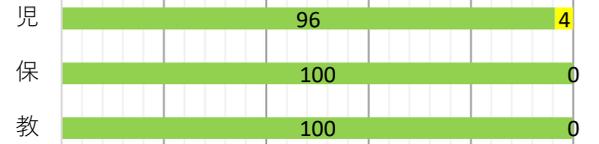
21	児	わたしは、学校の当番活動や係の仕事頑張っている。	児	95	5
	保	お子さんは、家庭で、お手伝いや任された仕事を進んでしている。	保	83	17
	教	児童は、当番活動や係活動の仕事を進んで行き、その責任を果たしている。	教	100	0



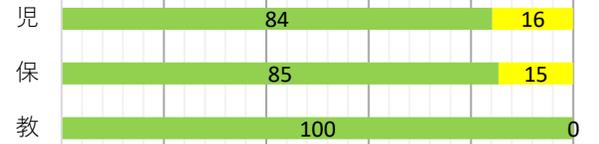
22	児	わたしは、健康に過ごせるよう気をつけている。(給食・外遊び・手洗い・うがいなど)	児	98	2
	保	家庭では、お子さんが健康に過ごせるよう気をつけている。(食事・運動・手洗い・うがいなど)	保	97	3
	教	私は、運動・食育等(給食・外遊び・手洗い・うがい)を計画的に行い、子どもの体力向上や心身の健康保持増進のために努めている。	教	100	0



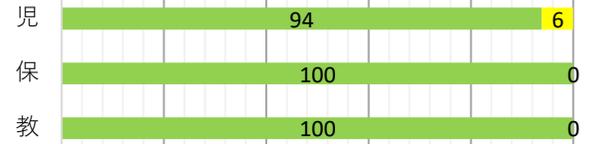
23	児	わたしは、安全な生活ができるよう気をつけている。(避難訓練、交通安全教室、登下校・校内でのくらし・運動場での遊び方など)	児	96	4
	保	学校は、避難訓練、交通安全教室、登下校指導を行い、児童の安全確保に努めている。	保	100	0
	教	私は、安全点検や避難訓練、交通安全教室、登下校指導・校内でのくらし・運動場での遊び方指導を通して児童の安全に努めている。	教	100	0



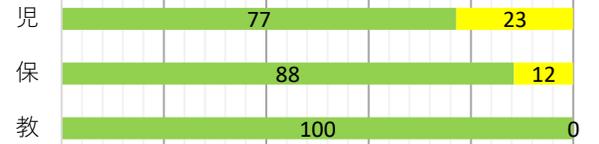
24	児	わたしは、就寝時刻を守っている。(1~3年生：午後9時ぐらい 4~6年生：午後9時半ぐらい)	児	84	16
	保	お子さんは、就寝時刻を守っている。(1~3年生：午後9時ぐらい 4~6年生：午後9時半ぐらい)	保	85	15
	教	私は、児童の就寝時刻や起床時刻等、規則正しい生活リズムの重要性について指導している。	教	100	0



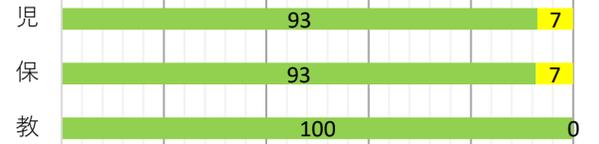
25	児	わたしは、掃除にしっかりと取り組み、ごみを見つけたら捨ったり、トイレのスリッパを揃えたりしている。	児	94	6
	保	学校は、校内の美しい教育環境づくりに取り組んでいる。	保	100	0
	教	私は、校内の美しい教育環境づくりに取り組んでいる。(清掃指導・整理整頓等)	教	100	0



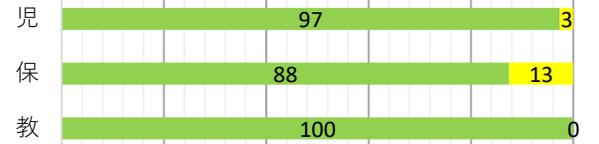
26	児	わたしは、困ったり、悩んだりしたとき、先生できる。	児	77	23
	保	先生は、子どもの話を聞いてくれる。	保	88	12
	教	私は、子どもの話をしっかりと受け止めている。	教	100	0



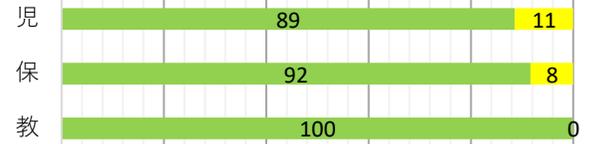
27	児	先生は、わたしの良いところを認め、ほめたり励ましたりしてくれる。	児	93	7
	保	先生は、子どものよさを認め、励ましてくれる。	保	93	7
	教	私は、子どものよさを認め、励まし、伸ばそうとしている。	教	100	0



28	児	先生は、わたしがまちがったことをした時、きちんと注意してくれる。	児	97	3
	保	先生は、子どもの間違っただ行動や行為に対して、保護者と共に解決しようとしている。	保	88	13
	教	私は、子どもの間違っただ行動や行為に対して、保護者と共に解決しようとしている。	教	100	0



29	児	わたしは、学校のこと、友だちのことなど、何でも家の人に話をしている。	児	89	11
	保	お子さんは、学校のこと、友だちのことなど、何でも話してくれる。	保	92	8
	教	子どもは、私に、何でも話してくれる。	教	100	0



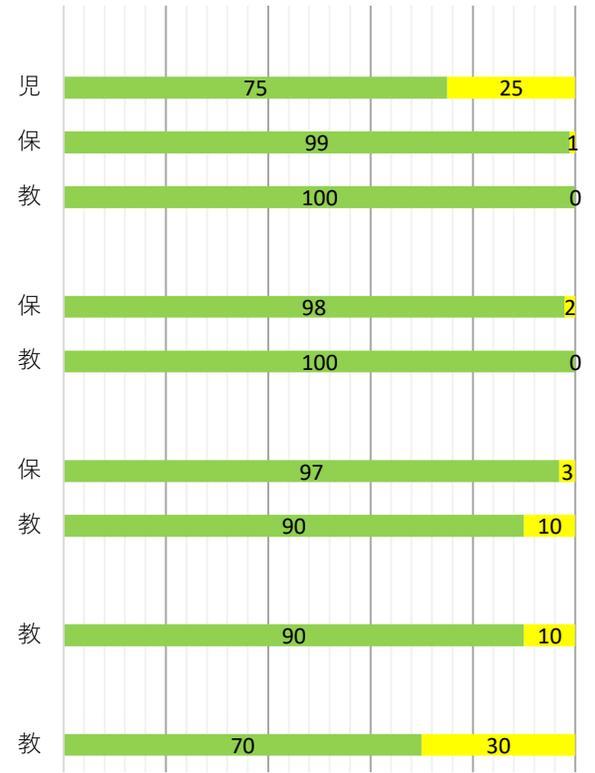
30	児	わたしは、学校だより、学級だより、保健だより等を読んでいる。	児	75	25
	保	学校は、学校だより、学級だより、保健だより等で学校や子どもの成長の様子を情報発信している。	保	99	1
	教	学校は、学校だより、学級だより、保健だより等で学校や子どもの成長の様子を情報発信している。	教	100	0

31	保	学校は、参観日やオープンスクール等を実施し、教育活動を広く公開している。	保	98	2
	教	私は、参観日やオープンスクール等の開催において、工夫して実施している。	教	100	0

32	保	学校は、保護者や地域の方の声を生かして、学校づくりを推進している。	保	97	3
	教	学校は、保護者や地域の方の声を生かして、学校づくりを推進している。	教	90	10

33	教	学校は、教育設備の充実した環境づくりに取り組んでいる。(教育機器や教材備品の充実を図っている。)	教	90	10
----	---	--------------------------------------------------	---	----	----

34	教	私は、自身の「働き方」について見直し、業務改善を図っている。	教	70	30
----	---	--------------------------------	---	----	----



### Ⅰ-1 学校満足度（項目1、2、3）

本校の学校満足度は、学校へ行くことが楽しく感じられ、夢や目標をもって生活し、かけがえのない自分を大切に思うことができる児童の姿であると考えています。アンケート項目1の「楽しさ」は児童92%（昨年度92%）、項目2「夢・目標」は児童89%（昨年度93%）、項目3「自分を大切にしている」は児童92%（昨年度89%）でした。概ね良好な結果と考えられますが、「楽しくない」と感じている児童（8%）、「夢や目標を持ってない」児童（11%）、「かけがえのない自分」と思えない児童（8%）がいます。この原因や要因を観察やアンケート等から児童の声を丁寧に聞き取り、保護者と連携しながら、その子に寄り添った指導を継続していきたいと考えます。

### Ⅰ-2 学校満足度及び学校生活（授業・生活・活動）

#### （項目1、2、3、4、10、11）

学校満足度及び学校生活については、項目（1、2、3、4、10、11）から評価しました。すべての項目で90%を超えており、良好と考えます。本校の学校経営の基本理念のひとつである「全児童を全職員で育てる」を推進し、一人の児童を多くの職員が関わり、寄り添う指導を今後も続けていきます。「夢」を大切にしたいキャリア教育の取組や児童が達成感等を味わえる学校教育活動を通じて、自分の将来像が描くことができる活動を増やし、目標を持って学校生活を送ることができるようにしたいと考えます。また、子供一人一人にはその子のよさが必ずあり、誰もがかけがえのない大切な存在であることを日常的に伝えるとともに、改めて自らがそのよさに気づけるような取組を強化し、支援をしていきたいと考えています。今年度も、すべての学校行事を中止することなく実施することができました。

「学習の理解度（項目4）」については、肯定的評価が94%ではあるものの授業の理解に不安を持っている児童がいます。児童にとって、授業が理解できる（分かる）ことは、大きな喜びであり、次の学びへの関心や意欲につながることは間違いありません。今年度も感染症対策を講じながら、みんなで対話的に学べる工夫を考え、スクールアシスタント（SA）と学びサポートスタッフ（MSS）を配置し、きめ細やかな授業支援並びに放課後学習支援（がんばりタイム）を推進してきました。今後も、児童の学びに向かう態度を育成するために、興味・関心・好奇心を揺さぶる楽しい授業づくり、仲間と共に学び合う授業づくり、自ら学習する学習基盤の確立を目指し、児童の「自立」への基礎となる学力の向上に努めたいと思います。

## II-1 小中一貫教育について

小野市では、平成28年度より小中一貫教育を推進しています。旭丘中学校区（旭丘中学校、大部小学校、下東条小学校、中番小学校）では、コロナが5類相当に移行されたことで、少しずつ交流機会が増えてきました。6年生の一日生活体験、教職員の授業参観交流など、小中一貫教育を推進してきました。特に、脳科学の知見に学び、脳の成長期である「10歳の飛躍」を踏まえ、小中一貫教育9年間の中の第2期である5年生・6年生・7年生にスポットをあて、社会的な「自立」に向けた基盤作りを進める取組を行っています。

## II-2 小中一貫教育の評価項目とその評価（項目8、9、10、17、18）

小中一貫教育については、項目（8、9、10、17、18）から評価しました。

まず、小中一貫学習指導部会においては、「学習習慣の定着を図る指導」を目標として推進してきました。中でも、5・6年生の家庭学習をより「自主的・計画的」に進められるようにと取組を進めました。5・6年生には学期末に「定期テスト」を実施し、旭丘中学校でも行っている範囲表をもとに自分で学習の計画を立てる実践表の作成やその活用を通して、家庭学習が自主的・計画的に進められるようにしました。しかし、家庭学習の取組（項目8）は、否定的評価が保護者で20%（昨年度15%）であり、十分な取組ができたか精査する必要があります。今後も自ら学ぶ習慣が身に付くよう継続した取組を進めるとともに、個別にアドバイスするなど、自分の成長が自覚できるよう細やかな支援を続けていきたいと考えています。

次に、小中一貫特別活動部会においては、「自らを律し、社会の変化に対応できる心身ともに逞しい児童・生徒の育成」を目標に、「自律」と「自立」の二つの視点から6年生、5年生には「自分で考え、判断し、決定すること」を求めています。中学生との交流活動として、6年生の「中学校一日体験」を実施しました。6年生にとって貴重な経験となったことと思います。また、本校の伝統として、6年生を中心とした行事の運営や全校縦割班によるなかよし班活動が充実していることもあり、なかよし班活動（項目9）、マラソン大会・中番フェスティバル等（項目10）の学校教育活動への肯定的評価98%と、児童の参加意欲の高さが分かります。教師主導でなく、児童が考え実践する場面も多く見られました。また、些細なことでも高学年が低学年へ声かけしながら見守りやサポートを行い、自分が引っ張っていかなければならないという自覚が、普段の生活からも見られました。6年生、5年生の「自立」へ向けての確実な一歩、成長が感じられるところです。

保護者の小中一貫教育の理解度（項目17）については、肯定的評価は94%となり、年々理解が広がっていることが伺えます。さらに、小中一貫教育が子どもの成長によいと思われているかどうかについても、肯定的評価が94%となっており、保護者の方の小中一貫教育に寄せる期待も大きいと考えられます。また、そのよさも実感していただいていると思われます。今後も、小中一貫教育に関する情報を分かりやすく伝える工夫をし、その周知を図るとともに、取組の見直しや改善を進め、更なる推進を図りたいと考えます。

### III-1 改善が必要な項目について (項目15、16、26)

ここでは、肯定的評価が低調あるいは課題があると判断したものを挙げました。特に「家で毎日読書をしている」(項目15)、「ゲームやスマホ・パソコン」(項目16)、「困った時、先生に相談」(項目26)の4つについて改善が必要な項目として挙げました。

#### (1) 読書(児童:肯定的評価74% 保護者:肯定的評価62%)

「家で毎日読書をしている」(項目15)については、児童74%(昨年度71%)で肯定的評価は横ばいですが、3年前から取り組んでいる「読書貯金」活動を実施し、読書の習慣化・定着化を図るよう取組を進めているところですが、十分とはいえにくいようです。読書は読解力や言語を身につけるためにとっても大変有効な方法です。何より「考える」力を育むことができます。その為、読書量と学力には相関関係が強くなります。また、読書の効果については、本は知的財産の宝庫であり、その習得はもちろん、落ち着いて学習する力、豊かな情操が培われるなど、児童の成長と発達に深く関係することが分かっています。読書習慣の確立は、児童の健やかな成長にとって大きな意味があります。ただし、保護者の肯定的評価が62%(昨年度47%)と大幅に上昇していて、家庭での本を読む姿が少しずつみられるようになったことが想像されます。家庭ではゲームやスマホ、ネット動画のように本を読むこと以外に興味関心がひかれるものが多く有り、読書をする時間が減ってしまっていることが考えられます。このことは、後述するスマホ・ケータイの利用状態、就寝時刻が守れないことから類推されます。生活習慣の見直しの重要性を保護者と共通理解をして取り組みたいと考えます。

#### (2) スマホ・ケータイ(児童:肯定的評価88% 保護者:肯定的評価68%)

「ゲームやスマホ・パソコンを1日1時間以内、親のいるところでしている」(項目16)のスマホの約束・ルールについては、昨年度児童の肯定的評価83%から本年度88%、昨年度保護者の肯定的評価74%、本年度68%という結果となっています。GIGAスクール構想により一人一台の端末が配布されたこともあり、学校でも直接、端末やネット環境に触れる機会が増えました。その中でネット環境への関わり方などの指導を定期的に続けていく必要性が高まってきていると考えられます。小野市教育行政顧問である東北大学川島隆太教授の研究結果からも、スマホやゲームの利用時間と児童の学習習得率には、とても深い関係にあることが分かっています。ゲームやスマホ・パソコンとのつきあい方についての啓発や学習を児童・保護者に継続して取り組んでいきたいと考えます。

#### (3) 児童と先生との関係について(児童:肯定的評価77%)

「先生に困った時、相談できる。」(項目26)では、児童の肯定的評価が77%(昨年度74%)と少し改善されていますが、残念な結果となっています。児童の相談相手が、低学年では保護者であったり、高学年では信頼の高まりから友達であったりすることが推測されますが、児童の困り感の把握に努める必要があると考えられます。日頃から児童との関係を大切に、些細なことでも相談できる関係、何でも話せる関係を構築する必要があります。

学校では、毎月1回の生活実態アンケート調査を実施し、児童の困っていることの早期発見・早期対応に努めるとともに2週間に1回開催している「いじめ等防止対策委員会」において、職員間で児童の情報共有を行っています。また、普段から児童にとって、先生と話しやすくなるよう日々の日記、授業、休み時間を通して、児童と先生との距離が少しでも近くなるよう改善を図り、支援を充実させたいと考えます。特に児童の行動に対し、肯定的かつ児童の立場に寄り添う声かけの実践を心がけています。自分をしっかりと受け止めてくれていると感じる安心感を醸成したいと考えます。児童の教師への「信頼と安心感」は、全ての教育活動を行う上で非常に重要であり、学校生活の基本となる部分です。

また、「児童と先生の関係」に関する項目(27、28)については、児童、保護者の肯定的評価が85%を超え、良好な結果となっています。「全児童を全職員で育てる」という本校の教育理念を生かし、今後とも児童と先生の揺るぎない信頼関係の構築にさらに努めたいと考えています。この児童と先生とのあたたかで豊かな人間関係を築ける

#### IV-1 その他の項目について

ここでは、「基本的な生活習慣」、「児童と保護者との関係」、「学校からの情報発信」について考えます。

#### IV-2 その他の項目とその評価

(1) 「基本的な生活習慣」に関する項目(19、20、21、22、23)については、児童では、肯定的評価が95%前後で推移しており良好といえます。このことは保護者の皆様のご支援とご協力によるところが大きい結果であり、大変嬉しく思います。ただ、項目(20、21)においての保護者の肯定的評価が80%を下回る結果となっており、家庭で見せる児童の姿が保護者の期待される姿となっていない様子が伺えます。

「挨拶」(項目19)では、どのような場面で、どのような挨拶がよいのかを考えさせ、保護者への挨拶はもちろんのこと、地域の方々、友達への気持ちのよい挨拶ができるよう「相手の目を見て」「自ら進んで」「大きな声で」「元気よく」と具体的に示しながら指導を継続していきたいと思います。

「忘れ物がないよう自分で準備や用意をしている」(項目20)については、昨年度76%であり、今年度は79%と上昇しましたが、引き続き注視しなければならない結果になっています。必要な物を自分で準備することは、「自立」のための基本と捉え、繰り返し指導しているところです。ただ、「準備」は、児童の成長段階によっても違ってきます。当然、高学年であれば全て自分で、中学年であれば本人が行い保護者の確認、低学年であれば一緒に確認・準備する等が考えられ、その成長段階での支援段階を踏まえた指導が重要となってくると考えられます。保護者との連携を大切に、自立に向けた支援を続けていきます。

「当番・係活動」(項目21)では、児童の肯定的評価95%、「手伝い」では、保護者の肯定的評価79%となっており、学校での係活動はしっかりと行われていると思われませんが、家庭での手伝いは消極的な様子が想像されます。ただ、このことについては各家庭の事情も影響していると思われれます。家庭でできる手伝いも子供達にとっては大変重要なことです。発達段階に応じた手伝いを考えていく必要があると思われれます。些細なことでもその行動を認め、褒めていくことで自信につながり、家族の一員としての自覚につながるものと考えます。

このような「基本的な生活習慣」の指導は、保護者や地域の方の協力があつてこそ、教育的効果が上がるものです。児童が家庭・家族の一員として、地域の一員としての自覚と責任、その意識を高めていくことができるよう、保護者と地域の方々との連携を通して、今後も、「自立」に向けた支援を学校としても続けていきたいと考えます。これからもご家庭のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(2) 「児童と保護者との関係」(項目29)については、児童の肯定的評価が84%となっており、児童がお家の方とよく話をしていると思われれます。当然、児童の年齢により、お家の方と少し距離をおくようなこともあります。今後とも、あたたかな家庭環境とよりよい家族関係を育んでいただきますようお願いしたいと思います。

(3) 「学校からの情報発信」(項目30、31)については、保護者の肯定的評価が99%、100%と非常に良好な結果であり、大変嬉しく思っております。この2年間はコロナ禍の為、学習参観が叶いませんでした。しかし、今年度は感染対策を十分に取ながら、全ての学校行事を実施できたことは何よりもよかったと思っています。また、「学校だより」、学級通信、保健だより等を発行し、きめ細かく学校の様子をお伝えしてきました。今後も折に触れ、学校の様子や児童の様子等に加えて小中一貫教育についても家庭、地域に広く周知できるようホームページ等を活用しながら広報活動に力を注ぎたいと思います。なお、児童の「学校だより、学級だより、保健だより等を読んでいる。」(項目30)の肯定的評価が70%(昨年度69%)となっており、まだまだ低調ではありますが、高学年になれば児童にも学校からの必要な情報として、読む習慣をつけることも重要なことだと考えています。学校からの情報を児童・保護者・地域・教師が共有できるよう、これからも情報発信に積極的に取り組んでいく必要があると考えています。

## V 学校評議員の皆様から

### 【読書習慣】

・読書習慣が低い傾向が続いている。家庭での新聞や本を読む機会が減ってしまっている。特に紙媒体での新聞を読む、辞書を引くということに注目して、小学校ではその楽しさを味わわせてほしい。

・スマホ・ゲームなど電子機器に向かう時間が、親子ともども増えてきている。便利であることに間違いはないが、電子機器の活用の仕方が課題となっていると思われる。川島隆太教授の言われていることにもつながっている。

### 【学習の準備】

・家で学習の準備をすることについては、親が子どもの準備する姿を見守ったり、待つことが、子どもの自立へつながるとされる。子どもが自分自身で準備することが「学びの重要な機会」となる。

### 【あいさつ】

・地域で立ち番をしていると、登校中のあいさつが低調である。先生が立ち番をする日は、先生にあいさつをしている声は大きくなっている。中番地域全体としてあいさつの機運を高めていきたい。どのような子どもを育てるのか、あいさつの意味や意義（知らない方だからこそ「あいさつ」を出会いの入り口とすること。）、その効果を考え、子どもたちと先生と一緒に考え、あいさつの活性化を図りたい。

### 【外国語教育】

・外国語教育の効果についての質問が出た。1年生から外国語に触れているが、言語の習得をするには、もっと時間をかける必要があるのではないかという内容であった。3年生から、ジョリーフォニックスを取り入れて、絵を見て、身振り手振りの動作で発音の仕方を繰り返し練習していることを伝えた。5年生からは、4技能を磨くことに力を入れて、英語専科教員は3小学校で同じ授業内容をしていることで、中学校からのスタートを揃えていることも伝えた。

・他の学校の学校評価と見比べてみたいとのご意見があった。学校のHPで公開されていると回答した。